保育現場で必要とされる音楽表現技術の向上を目指す取り組みとその効果

― 保育者養成校の『音楽遊び』授業実践とアンケート調査から ―

Approach to Improve Musical Expression Skills Required in Nursery Schools and Their Effect
― Through the Class Practice “Music Play” in Institutions Training Childcare Workers and Questionnaire Survey ―

今　川　典　子※　　中　野　由紀子※　　小　森　光　紗※　　川　田　将　人※
IMAGAWA, Noriko　　NAKANO, Yukiko　　KOMORI, Misa　　KAWADA, Masato

キーワード：音楽表現　音楽遊び　保育者養成

はじめに

本稿は、こども教育宝仙大学（以下、本学）こども教育学部幼児教育学科３年生の授業科目「音楽遊び」(2021年度秋学期）の実践報告である。

「音楽遊び」は４年次の教育実習（幼稚園）を控えた３年生を対象に、これまでに学んできた、子どもの歌の弾き歌いのレパートリーの拡充と更なる研鑽、保育実践における音楽表現技術を幅広く学ぶことを目的としている。

本学における新型コロナウイルスによる感染拡大防止措置により、本授業においては、教室への入室制限等の感染防止策を徹底したうえでの対面授業を基軸としながら、状況に応じて遠隔授業に切り替えるなど、柔軟な運営が求められる中での実施となった。

本稿では、対面及び遠隔授業によって実施された「音楽遊び」の授業実践報告と、最終授業時に行った学生へのアンケート調査の結果からその学習効果について考察する。

Ⅰ　「音楽遊び」の授業概要

１.「音楽遊び」の位置づけ

「音楽遊び」は、３年生を対象として開講される「卒業選択／保育士選択必修科目」であり、2019年の入学生より開設された本学の新カリキュラム（以下、新カリ）において、本学の音楽教育の基礎として位置づけられる。１年春学期開講の「音楽と表現Ⅰ」、ピアノを使用した弾き歌いの実技レッスンを中心とした「音楽実技Ⅰ」(１年秋学期)、「音楽実技Ⅱ」（２年春学期）を学びの土台にして、声や楽器を通じた仲間との協同的で創造的な表現活動を実施する「音楽と表現Ⅱ」（２年秋学期）という流れで受講を進めていく。

新カリにおいて、本稿で取り上げる2021年度「音楽遊び」は初の実施年度となる。以下、表１に新カリの音楽関連科目一覧を示す。

表１　本学の新カリにおける音楽関連科目一覧

	1年	2年	3年	4年
春学期	音楽と表現Ⅰ	音楽実技Ⅱ	歌遊び	
秋学期	音楽実技Ⅰ	音楽と表現Ⅱ	音楽遊び	
			リトミック	

２．授業概要と到達目標

以下に、2021年度本学シラバスに記載されている「音楽遊び」の授業概要と到達目標を引用する。

【授業概要】

器楽（鍵盤楽器、打楽器等）を軸とした保育における音楽活動について、学生個々の習熟度に応じたレパートリーの拡大を図る。個別指導と並行して、保育現場を想定したグループワークを積極的に行い、実践力の向上を図る。

【到達目標】

①それぞれの習熟度に応じた子どもの歌（ピアノ伴奏による弾き歌い)のレパートリーを更に拡げ、自信を持ってその歌唱伴奏を務めることができる。

②リズム楽器の正しい奏法を習得し、器楽を軸とした音楽活動（合奏、アンサンブル）に主体的に取り組むことができる。

※　こども教育宝仙大学　非常勤講師

Ⅱ　「音楽遊び」授業実践報告

１．授業準備

本授業は前述の通り、新カリによって開設された初開講科目であったため、担当教員４名での授業準備には多くの時間を費やした。また、新型コロナウイルス感染症による感染状況の予測が立てられないことから、全15回のうち、第１回～第７回までは対面授業と遠隔授業のどちらでも授業が行えるように計画した。秋学期後半は感染状況が収束傾向となったため、第８回～第15回は対面授業での計画となった。さらに、履修する学生は開講中に保育実習があるため、その分の補講設定においても、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら決定した。全15回の授業計画は以下の通りである（表２）。

２．授業の実施方法

対面授業を行う場合、本学では、新型コロナウイルス感染症の感染対策として、音楽演習室とピアノレッスン室には、入室できる人数が設定されていたため、１コマ90分の授業を２分割（45分・45分）にして、ピアノレッスン室での「個人レッスン」と音楽演習室での「講義・演習」の２部交代制となった。学生23名を４グループに分け、４名の教員が各グループの担当（個人レッスンの担当教員）となり、２グループずつでの教室入れ替え制とした（表３）。

遠隔授業時は、「講義・演習」を学生全員で一斉に行えるため、ZOOM による30分間の「講義・演習」と60分間の「個人レッスン」（一人当たりのレッスン時間はZOOM への入退室を含めて約10分間）とし、個人レッスン以外の時間は各自ピアノと声楽の練習時間とした。

表２の授業計画文中の取消線は使用しなかった方の授業内容であり、第１回と第２回は遠隔授業、第３回以降は対面授業にて行った。なお、授業スタイルの決定は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて、２週間毎に決定した。

３．音楽演習室とピアノレッスン室の授業内容

【音楽演習室】

音楽演習室は、36名程のクラス授業を行うことのできる教室であり、グランドピアノ１台が配置され、動きを伴った音楽表現活動を行うことができる。必要に応じて机と椅子も配置できるよう、用意がしてある。

本授業時は感染対策により、学生の収容可能人数を23名までとした。

ここでの授業内容は、ピアノ演奏技術に必要な楽典（移調、コード奏法、伴奏法）を主に扱う「ピアノ系テーマ」と、動きを伴う音楽表現（音楽表現遊び、手作り楽器、

表２　2021年度「音楽遊び」授業計画

回数	日付	演習担当	形式	内容	音演室 （毎テーマの講義or演習）	レッスン室 （個人レッスン）
1	9/20	教員A	対面	~~オリエンテーション これまでの復習~~	~~①顔合わせ、GCR登録確認、授業方法・授業概要説明 ②これまでの復習（調性・コード等） ※動画~~	~~これまでのレパートリーの確認と今後の計画~~
			遠隔	オリエンテーション これまでの復習	①GCR登録確認、授業方法・授業概要説明 ②これまでの復習（調性・コード等） ※動画	後半60分で個人レッスン
2	9/27	教員B	対面	~~手話ソングの紹介~~	~~手話ソングの紹介（いぬのおまわりさん） ぬのおまわりさん~~	~~弾き歌い個人レッスン~~
			遠隔	手話ソングの紹介	zoom （はじめ25分）出欠確認と手話ソングのレクチャー	間60分、個人レッスン
3	10/4	教員A 教員C	対面	移調①	①メロディーの移調譜づくり ②コード移調法 ※ちょうちょ	弾き歌い個人レッスン
			遠隔	~~移調①~~	~~①メロディーの移調譜づくり ②コード移調法 ※ちょうちょ、おばけなんてないさ ※動画~~	~~後半60分で個人レッスン~~
4	10/11	教員A 教員C	対面	リズム遊び （ちょうちょ） 絵本うた紹介	①移調の答え合わせとリズム遊び ②絵本うたの紹介	弾き歌い個人レッスン
			遠隔	~~移調② 手話ソング②~~	~~①移調の答え合わせと中間試験の課題出発表（20分） ②手話ソングの課題発表（10分）~~	~~弾き歌い個人レッスン~~
5	10/18	教員B 教員D	対面	絵本うた①	①絵本うたの制作	弾き歌い個人レッスン
			遠隔	~~手遊びうた 伴奏アレンジ①~~	~~①手遊び実践（5～10分） ②伴奏アレンジ：ルート音を使った伴奏リズム紹介 左手ルート、右手コードの弾き歌い~~	~~弾き歌い個人レッスン 移調課題~~
6	11/1	教員B 教員D	対面	絵本うた②	①発表に向けてグループ発表練習 課題：次週の発表にむけて	弾き歌い（中間リハーサル）
		教員A 教員C	遠隔	~~手遊びうた 伴奏アレンジ②~~	~~①手遊びうた実践（5～10分） ②伴奏アレンジ：メロディにコードの音をつける(Happy Birthday to you) オリジナル楽譜をつくろう~~	~~弾き歌い個人レッスン 移調課題~~
7	11/8	全教員	対面	中間試験	①絵本うた 12/4の持ち物や補講について。	②弾き歌い
		教員A 教員C	遠隔	~~伴奏アレンジ③~~	~~①オルタネート ②アルベジオ（オープン・クローズ）~~	~~弾き歌い個人レッスン 移調課題~~
	11/15	保育実習	休講			
	11/22	保育実習	休講			
	11/29	保育実習	休講			
8	12/4	全教員	対面	リズム楽器制作とリズム遊び	①リズム楽器の制作 ②それを使ったリズム遊び	
9		全教員		弾き歌い	①弾きうたい個人レッスン	
10	12/6	教員A 教員C	対面	伴奏アレンジ①	①簡易伴奏法 ※動画視聴	弾き歌い個人レッスン
11	12/11	教員A 教員C	オンデマンド	伴奏アレンジ②	①メロディアレンジ ②Happy Birthday楽譜制作 →課題	弾き歌い個人レッスン
12	12/13	教員B 教員D	対面	合奏①	①ミュージックベルについて ②奏法 選曲とアンサンブル担当分け、練習	弾き歌い個人レッスン
13	12/20	全教員	対面	合奏②	①ミュージックベル指導法 ②アンサンブル練習	弾き歌い個人レッスン
14	1/17	全教員	対面	期末試験のリハーサル （合奏③）	リハーサル 課題：合奏発表会に向けて	リハーサル
15	1/24	全教員	対面	期末試験	①器楽合奏	②課題曲 ③弾き歌い

表３　教室と教員配置

教室	音楽演習室	各ピアノレッスン室
前半 （ 45分）	教員A・ B 各担当学生	教員C・ D 各担当学生
後半 （ 45分）	教員C・ D 各担当学生	教員A・ B 各担当学生

表４　副教材　「音楽カルテ」裏面

更新：210324

番号	曲名	課題提示	歌	右手	左手	両手	調	備考（試験曲等）
31	Happy Birthday to You				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
32	青い空に絵をかこう				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
33	あくしゅでこんにちは				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
34	あなたのおなまえは				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
35	きのこ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
36	きらきら星				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
37	せかいじゅうのこどもたちが				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
38	せんせいとおともだち				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
39	線路は続くよどこまでも				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
40	友達はいいもんだ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
41	にじ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
42	ニャニュニョの天気予報				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
43	はじめの一歩				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
44	ピクニックマーチ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
45	びわ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
46	ホ！ホ！ホ！				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
47	ぼくのミックスジュース				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
48	やきいもグーチーパー				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
49	やっほっほなつやすみ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
50	ヤンチャリカ				□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
51					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
52					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
53					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
54					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
55					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
56					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
57					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
58					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
59					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		
60					□簡 □コ □教	□簡 □コ □教		

楽器演奏など）を主に扱う「表現系テーマ」という２つのテーマを設定し、担当教員も教員Ａと教員Ｃが「ピアノ系テーマ」、教員Ｂと教員Ｄが「表現系テーマ」を主に担当した。

【ピアノレッスン室】

本学には４つのピアノレッスン室があり、それぞれにアップライトピアノ１台と電子ピアノ10台が配置されている。感染対策のため、教員１名と学生５名までの入室制限を設けており（学生が６名のグループは２室利用）、45分間で５～６名の学生の個人レッスンを１名の教員が担当した。指導時間は学生ひとりにつき６～７分間とし、指導時間以外は、各自で自習（練習）を行った。前項、「Ⅰ-２．授業概要と到達目標」にあるように、それぞれの習熟度に応じた子どもの歌（ピアノ伴奏による弾き歌い）のレパートリーを増やすことを目標としているため、学生は担当教員と相談した上で、課題曲を決定した。課題曲は、本学の音楽科目「音楽と表現Ⅰ」、「音楽実技Ⅰ」、「音楽実技Ⅱ」、「音楽と表現Ⅱ」でも使用してきた教科書『こどものうた　200』、『続こどものうた200』（チャイルド社）の２冊を引き続き使用した。副教材「音楽カルテ」もこれまでの音楽科目で使用してきたカルテを引き続き使用した。カルテの表面は「音楽と表現Ⅰ」「音楽実技Ⅰ」「音楽実技Ⅱ」の３つの科目の課題曲となっている。「音楽カルテ」の裏面（表４）に20曲掲載されており、その他、本授業で取り扱った３曲「すてきなパパ」「どんな色がすき」「ぼよよん行進曲」を追加した。本授業は３年次履修科目のため、殆どの学生がカルテ表面の学習を終えており、カルテ裏面の曲に取り組む学生が多く見られた。

なお、副教材「音楽カルテ」の使用方法や表面の掲載曲についての詳細は、葛西ほか(2019)を参照されたい。

４．定期試験の実施

【中間試験】

中間試験は第７回に実施し、試験内容は①「制作した絵本うたの発表」、②「子どもの歌の弾き歌い」とした。絵本うたの発表には、絵本うたの制作に加えて、歌い方、発表での工夫等も採点の対象とした。制作の技法をはじめ、絵本の見せ方、うたのテンポなど、学生の工夫と個性が感じられ、素敵な「絵本うた」の試験（発表会）となった。作品の一部を掲載する（図１、２）[1]。

子どもの歌の弾き歌いは、個人レッスン時に担当教員と相談し、選曲した。前述の通り、翌年の教育実習を視野に入れて選曲をする学生が多かった。

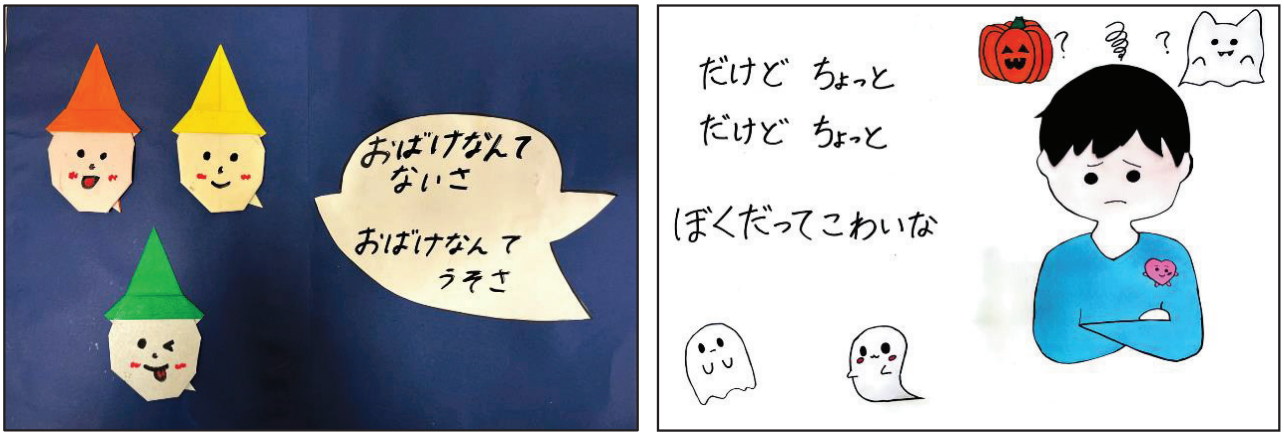


図１　おばけなんてないさ（２つの作品から抜粋）

図２　どんぐりころころ（２つ作品から抜粋）

【期末試験】

期末試験は授業最終回（第15回）に実施し、試験内容は①「器楽演奏（アンサンブル）：ミュージックベル」、②「課題曲：Happy Birthday to You のコード伴奏」、③「子どもの歌の弾き歌い」とした。ミュージックベルは、開講時に分けた４つのグループ（５～６名）で「きよしこの夜」を演奏した。「課題曲：Happy Birthday to You のコード伴奏」は、「ピアノ系テーマ」での講義で扱った内容であり、各自でコード伴奏を考え、手書きの楽譜も作成した。子どもの歌の弾き歌いについては、中間試験と同様に担当教員と相談し、選曲した。

Ⅲ　アンケート調査

１．アンケート調査の実施と方法

本授業は前述のとおり2021年度に初めて開講した科目であり、授業内容や教育的効果などの振り返りとともに、次年度以降の授業内容の充実を目的として、履修をした学生23名に対してアンケート調査を Google Forms を使用して行った。

授業最終回（第15回）に本学の FD アンケートとは別に用意し、授業内容や改善点などに特化した内容とした。なお、倫理的配慮として本アンケート調査のデータは研究目的以外には使用しないこと、また個人が特定されないように配慮し、一切成績には影響しない旨を、アンケート冒頭の説明文に付記した。

実際にアンケート調査に回答した学生は21名であり、２名が無回答だった。アンケート調査の内容と結果は、次項「Ⅳ　アンケート調査報告」に記載する。

２．倫理的配慮

授業最終回に行った Google Forms を使用したアンケート調査の倫理的配慮については前述の通りであるが、前項Ⅱ-４にて掲載した「絵本うた」の学生の作品（図１、２）についても、倫理的配慮として、研究目的以外には使用しないこと、また個人が特定されないように配慮し、一切成績には影響しない旨を口頭で周知し、了解を得た学生の作品のみ写真撮影した[1]。

Ⅳ　アンケート調査報告

アンケート調査の内容と結果は以下のとおりである。設問は７つであり、設問１と２は選択式、設問３～７については自由記述とした。なお、本文中に自由記述を引用する際には、明らかな誤記以外は修正せずにそのまま記載するが、設問３の回答については、２つの視点から考察したため、筆者が回答を分類し、各回答の文末に①と②を追記した。

Ⅴ　考察

【設問１　本授業「音楽遊び」の満足度をお答えください】

本授業に対する満足度は「とても満足―とても不安」までの５段階の評価尺度を用いた。結果、85.7％の学生が「とても満足」、14.3％の学生が「やや満足」と回答し 「普通」、「やや不満」、「とても不満」と回答した者はいなかった。

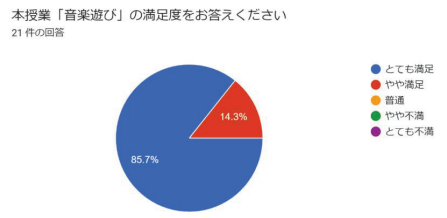
高い満足度を得ることができたことは、初開講科目を準備・実施した努力が報われた思いである。

【設問２　面白いと感じた授業内容は何でしたか】

ピアノ演奏技術に必要な楽典を主に扱う「ピアノ系テーマ」と、動きを伴う音楽表現を主に扱う「表現系テーマ」という２つのテーマから授業内容を構成したが、「絵本うた」をはじめ、「移調」、「手話ソング」、「リズムあ

表５　アンケート回答　【設問１、２】

設問１ 本授業「音楽遊び」の満足度をお答えください



設問２　面白いと感じた授業内容はなんでしたか。（複数回答可）

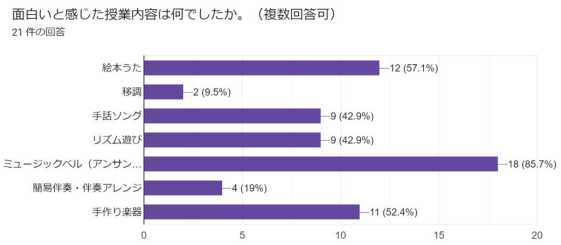


表６　アンケート回答　【設問３、４】

設問３　本授業への参加を通して、自分にとって必要だと感じた技術は何でしたか。
絵本うたは実習で実際にやって反応が良かったので必要だと感じました。①
リズム感とピアノ伴奏②
弾き歌いにせよアンサンブルにせよ、周りを見る余裕を持つために自信を持って演奏出来る体制を整える事が必要だと感じた。②
ピアノは本当に苦手なので、その中で挑んだ授業でした。先生も丁寧にアドバイスをくださり、自分にはピアノが必要だと思いました。②
ピアノをもうちょっと練習して弾ける曲のレパートリーを増やすこと②
楽譜を読む技術とそれを演奏する技術②
ピアノ 楽譜を読めるようになること②
弾き歌いであると考えた。ピアノは、弾けるけれど人前で弾くとなると緊張感からか、弾き歌いが上手くできないため、人前での弾き歌いの技術が必要であると思う。②
やっぱりピアノ両手でピアノを弾く技術が必要だな思います。また、右手をもっとしっかりと練習したり、楽譜を読む力が必要かなと思います。②
ミュージックベルの協調性や子どもたちにどう楽しめるかの技術が必要だと感じた。①
楽譜を正確に理解する技術（個人レッスンの際によく楽譜の見間違いなどをしたまま練習してしまったのを指摘されることが多かったと感じたから）。②
伴奏はもちろん、歌の技術も必要だと感じました。こどものうたは楽譜通りに弾くことがほとんどだとは思いますが、簡易伴奏としても弾くこともあると思うのでそういう技術も必要だと思いました。②
もっと弾き歌いができるようになる。②
人の前に立った時にミスをしても堂々と演奏をすること。②
絵本歌を作ったことで実習で使えるような材料を作ろうという気持ちになった①
移調することや、簡易伴奏といった伴奏アレンジをする技術。①
子どもたちに歌詞を伝えること②
弾き歌いの技術、歌詞の意味を捉えて、子どもに伝える技術、歌うことの楽しさを子どもに伝える技術 演奏することは楽しいと伝える技術②
私はこの授業を通して継続する力が必要かつ大切であると学びました。私はまだピアノに対する苦手意識を持ってしまった為、振り返ってみたらピアノを弾く時間を自ら少なくしてしまったのが反省点です。現場に出るまでの時間が少しづつ減ってきているからこそ、時間を決めたり、小節ごとに練習を行い、ピアノでの出来たという体験をより多く取り入れる事で苦手意識も徐々になくなってくると改めて思いました。この授業で学んだ継続する大切さを今後に生かしていきたいと強く思います。②

設問４　授業内容に加えて欲しい（学びたかった）音楽表現について、あれば具体的にお答えください。
連弾とかやると面白いなと思いました。
特になし
手話ソングをもっと学びたかったです！
特になし
特になし
もう少しだけ楽典を学びたかったなと思います ピアノのレパートリーを増やしたいなと感じました
特になし
わらべうたなど、保育実習で使える手遊び歌などを学びたかったです。
手話ソング
体を使って、言葉を自分なりに表現する方法 例、キラキラ・クルクル・スイスイなど
音楽の授業は色んな事が学べて楽しかったのですが、強いてあるとすれば手遊びや手話の授業をもっと学びたかったです。 1度授業で行った手話が楽しく今まで学べなかったのでとても勉強になりこの授業を取ってよかったと思ったと同時にまた違った手話や手遊びを学ぶ事で現場に出た時に思い出し実践出来るので保育の引き出しが増える機会に繋がる為多くの手話や手遊びを知りたかったです。

そび」、「ミュージックベル」、「簡易伴奏・伴奏アレンジアレンジ」、「手作り楽器」のそれぞれに「面白いと感じた」と回答があった。

４名の担当教員がそれぞれの専門性や経験を活かし、幅広い音楽表現活動を授業内容に盛り込めたことが良かったのではないか。

表７　アンケート回答　【設問５、６、７】

設問５　授業の中で興味を持ち、さらに勉強したいと思った内容は何ですか。
手話で歌うことです。
伴奏アレンジ
ハンドベル
コードから伴奏をアレンジしていく部分。
手話ソングや、ハンドベルなどみんなで行う事がとても楽しかったのでさらに勉強したいと感じました。
ミュージックベル
コード進行の部分
手話ソング
音楽を使った遊び、手話ソング
手作り楽器作りについてもっと知りたいなと思いました。理由は、マラカスなど意外にもっと知りたいと思ったからです 手作り絵本も今回1番しか作成したかったので2番以降も作成したいなと思いました。
ミュージックベルについて、子どもたちが演奏する時どう気をつければいいのか、難しい子にはどう対応するのか勉強したいと思った。
コード伴奏
ハンドベルや手作り楽器などさらに勉強したいなと思いました。保育者になった時に手作り楽器やハンドベルなどできることがあると思うので、それについて、勉強したいと思いました。
絵本うたに興味を持ったから２番とか作りたいなと思いました。
もっとピアノを頑張りたいと思いました。
レパートリーを増やしていこうと思った
リズム遊び 保育の現場で気軽に活かしていける音楽遊びに興味を持ちました。保育の中の少し空いた時間などで活かせるよう更に勉強し、音楽遊びのバリエーションを増やしたいと思っています。
手話ソング
ミュージックベル含め、ピアノ以外の楽器を演奏すること
手話とリトミックと手作り楽器です。 手話は、障害のある子どもとのコミュニケーションになったり、健常児に手話を教える事で障害児の理解に繋がると思ったので楽しみながら学べる童謡での手話をYouTubeなどを通して学んでいきたいです。また、リトミックは身体を動かしながら表現できるのが魅力であり、現場に出た時もリトミックはやると思うのでまた新たな形で学んでいきたいです。そして、手作り楽器では簡単に作る事が出来てそれをリトミックに行かせるのはとても素敵な事なので、子どもが楽しみながら手作り楽器を作れる様、今のうちに手作りで作れる楽器を自分の力で作り、現場に出る前に自分の保育の引き出しを増やしていきたいです。

設問６　実習先で歌われていた曲で好きな曲や弾けるようになりたい曲を教えてください
かばくん
青い空に絵を描こう
絵本に合わせて曲を弾きたい。名前は忘れました
どんな色が好き-となりのトトロ
てのひらをたいように
ピアノを特に使わない園でした
はじめの一歩を教科書伴奏の通りに弾き、伴奏につられないように弾き歌いが出来るようになりたい
お弁当のうた 一年生になったら
さんぽやこぎつねを弾けるようになりたい。実習先では、クリスマス会の劇の曲を弾いてたのでそれも弾けるようになりたい。
大きな栗の木の下で
こどものうたに載っている曲はほとんど弾けるようになりたいです。（知らない曲もあるので）
どんな色がすき
ともだちはいいもんだ
エピカニクス
ぽよよん行進曲
「どんな色が好き？」 「となりのトトロ」
ドロップスの歌、あめふりくまのこ、そうだったらいいのにな、さよならぼくたちの幼稚園(好きな歌) すてきなパパ、お弁当、おかえりの歌、さよなら僕たちの幼稚園、(弾ける様になりたい歌) お弁当、おかえりの歌、山の音楽家、やきいもグーチーパー(実習で聴いた曲)

設問７　実習に行って、さらに習得したいと思った内容（表現技術）は何ですか。
手遊びや童歌
ピアノ技術
合奏技術、合奏指導(援助し導く)技術
ピアノを弾けるようになりたい
ピアノ
ピアノを演奏できる技術
手話ソング
弾き歌いだとやっぱり歌う声が小さくなりがちだったから弾き歌いする技術をつけたいなと思いました。
ピアノをもっと表現できるようになるのと、歌を子どもたちと一緒に歌って歌う表現の楽しさを子どもたちに伝える能力を取得したいと私は思った。
手遊びのレパートリーを増やし、さらに伴奏も弾けるようにしたいと思いました。
楽しく弾いているように見えるように弾きたいです。
周りを見ながら弾き歌いすること。歌詞を、子どもたちのために先にいいながら弾くこと。
人前に立つ時に緊張しないこと
劇で使えるような伴奏
年齢毎におけるリトミック活動
弾き歌い
弾き歌いをしながら、子どもと一緒に歌を歌う時間を楽しむ技術 子どもの演奏に合わせて、ピアノを弾く技術
リトミックとピアノです。 両方とも子どもの表現を豊かにする上で必要且つ子どもが楽しいと思えるために保育の時間で取り入れる事が大切とされている事なのでより習得して現場に出た時に子どもたちと楽しく生かしていきたいです。学んだことを忘れずに活かすことができる様に毎日音楽に触れていきたいです。

【設問３　本授業への参加を通して、自分にとって必要だと感じた技術は何でしたか】

回答を大きく分類すると、①「本授業で初めて得た学びをさらに深める」、②「これまでに学んできた音楽技術の向上と発展」の２つに分類することができるだろう。

「絵本うた」は初めて経験した学生も多く、「絵本うた」についての記述が２件あった。実際に学生が本授業開講中に行った保育実習での歌唱活動に「絵本うた」を用いた際の子どもたちの反応についてや、事前に準備（制作）することの大切さについての回答があった。本授業では、「絵本うた」を各自で制作したことで、実習や将来保育者として実践できるアイデアを得る機会となったであろう。

また「これまで学んできた音楽技術の向上と発展」に分類した回答には、ピアノの演奏技術や弾き歌いの技術、楽器の奏法（ミュージックベル）に加えて、「人前での演奏でも緊張しない事」や、「周りの様子を見る（合わせる）余裕が持てるようになりたい」、「音楽の楽しさを子どもに伝える技術」、「演奏でミスをしても堂々と演奏する」など、自身の音楽技術の向上にとどまらず、保育現場で必要とされる音楽技術を意識した回答が多く見られた。これらの保育現場を意識した目標は、幾度かの実習を経験した３年生ならではの気付きでもあり、保育者養成校の音楽科目としての重要な観点でもあろう。

なお、学生からの回答は、本科目の「授業概要」と「授業の到達目標」とも合致している。今後も授業内容を踏襲しながら、学生の音楽技術が多方面から向上するように教員一同で指導に努めなければならない。

【設問４　授業内容に加えて欲しい（学びたかった）音楽表現について、あれば具体的にお答えください】

「手話ソングが楽しかった」、「授業の他に手話や手遊びを学ぶ事で引き出しが増える機会に繋がる」など、手話ソングに関する回答が３件あった。これは、「手話ソング」の楽しさを授業で経験し、実習や保育現場でも実践したいという意欲の表れであると言える。

「連弾とかやると面白いなと思いました」という回答もあった。連弾は「自分だけ出来ればよい」という訳ではなく、お互いがよく練習してから一緒に合わせて作り上げる為、アンサンブルの土台となるであろう。新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、今後の授業内容に取り入れたい。

また、「もう少しだけ楽典を学びたかった」と回答もあった。楽典は１、２年生での音楽科目で基礎から学んでいるが、楽器の演奏をはじめ、音楽表現的な遊びをしていく上では不可欠なものである為、これまでの復習を兼ねて学習するのもよいであろう。

さらに、「ピアノのレパートリーを増やしたい」という回答もあった。今後は、手話ソングやピアノのレパートリーを増やしていけるように、授業内容の充実を図るとともに、個人レッスンの良さを活かしたきめ細やかな指導を心掛けたい。学生の学習意欲が高まることで、保育者となった際の実践力の向上にも繋がるだろう。

【設問５　授業の中で興味を持ち、さらに勉強したいと思った内容は何ですか】

「伴奏アレンジ」、「コード進行（伴奏）」など、これまでに習得してきたピアノ伴奏技術の向上についての回答が５件あり、これは本授業の到達目標である、子どもの歌（ピアノ伴奏による弾き歌い）のレパートリーを更に拡げる点において、学生が既存の楽譜や決められたコードの転回形、伴奏の形にとらわれず、１つの楽曲でも様々な表現方法があることに気づき、音楽を感じた自由な発想から創造的なピアノ伴奏を試みたい、という意図であると解釈できる。

また、「ミュージックベル」についての回答が６件あり（授業内においてミュージックベルとハンドベルの違いについての説明をしていたが、学生の中でその区別が曖昧になっていることは指導における反省点であり、今後に反映させたい）、これはミュージックベルの演奏を通して互いの音を聴きあったり、難しいパートを部分的に受け持ちあうなどの工夫をし、一つの作品を完成させる協同的な活動に音楽の楽しさと充実感を得た結果と考えられる。また、「子どもたちが演奏する時はどう気を付ければよいのか」、「難しい子にはどう対応するのか」といった、ミュージックベルを子どもの活動に取り入れることに目を向けた記述も見られた。本授業において、ミュージックベルを使用した器楽合奏に取り組んだ時間は、第12回から第15回までの４回であったが、そのうち第15回の最終授業は期末試験内における発表であったため、その大部分を発表に向けてのグループ活動に充てており、ミュージックベルの指導法については持ち方や鳴らし方、デスクタイプのベルの紹介と実演に留めた。しかし、保育者が楽器の特性を理解して美しく鳴らし、楽しんで演奏をする姿は、子どもにとっての魅力的な楽器との出会いとなり、その後の楽器への主体的な関わりの第一歩となるため、限られた時間ではあるが、楽器の魅力を引き出し、学生自身がよりその魅力を実感できる活動となるよう援助していきたい。

【設問６　実習先で歌われていた曲で好きな曲や弾けるようになりたい曲を教えてください】

「さんぽ」「おべんとう」「どんな色がすき」に複数の回答があった。本学の課題曲に入っている曲の他に、課題曲には入っていない曲も数曲挙げられている。保育現場で歌われる機会が多い曲については、課題曲に追加するなど授業内容を検討するとともに、実習での経験を学生全員と教員で共有することが望ましいと考える。

【設問７　実習に行って、更に習得したいと思った内容（表現技術）は何ですか】

「ピアノの演奏技術」や「弾き歌いの技術」等のピアノ演奏技術に関する回答が最も多かった。実習では、子どもたちとの音楽表現活動の楽しさを経験するとともに、援助の難しさも感じたのではないかと考えることができる。やはり、授業内で演奏するのと保育現場で子どもたちを前にして演奏するのとでは大きく異なる。「音

楽実技Ⅱ」の授業でも行っている「伴奏ワーク（教員役と子ども役に分かれ、歌いだしの声かけなど保育実践を想定した活動）」の機会を更に増やし、「保育現場における音楽表現活動を想定した練習」を多く取り入れることも有効であると考える。

おわりに

2021年度「音楽遊び」の実践記録の振り返りとアンケート結果から、授業への参加を通して、学生が様々な音楽表現活動に興味を持ち、さらに理解を深めようとする姿が見られた。それぞれのテーマの中で、多様なアプローチを学ぶことにより、学生自身が表現することを楽しみ、子どもにその「楽しさ」を伝えるにはどうしたらよいのか、といった保育現場や子どもを意識した回答も多くみられ、本授業の目的である、弾き歌いレパートリーの拡充やその技術向上、リズム楽器の正しい奏法・アンサンブルといった技術的な目標と向き合いつつも、子どもたちに音楽活動を展開する保育者としての心の芽生えを見ることができた。15回の授業の中に、多様な音楽表現技術を取り入れたことは、学生の音楽表現に関する視野を広げ、関心を高めることになったと考えられる。一方で、それぞれの活動における技術の安定や、より深い教材研究に十分な時間があったとは言い難い。今後は、学生自身が本授業で感じた音楽表現活動の楽しさや、更なる学習意欲を継続させるためにも、保育現場で必要とされる対応力や実践力が習得できるような反転授業を取り入れることも有効ではないかと考える。

学生が授業において得た発見や技術を基に、子どもたちが繰り返し遊び、豊かな人間性を育むことができる「音楽遊び」の実践を目指し、研鑽を積んでいくことを心から願っている。

引用文献

葛西健治・嶋田陽子・齋藤亜都沙・志田尾恭子（2019）「2019年度春学期「音楽と表現Ⅰ」報告―表現へのアプローチを主体とした初年次音楽教育の試み―」『こども教育宝仙大学紀要』11, pp. 91-103.

注

1）本稿は2021年度『音楽遊び』の実践報告であるが、作品の掲載について学生の承諾が確実に確認できなかったことや、作品内容が著作物の引用・複製に当たる可能性があったため、それら２つの条件を満たした2022年度の作品を掲載することとした。